

6月30日～7月1日、下記2項目について全議員による行政視察を行いました。

【長野県飯田市議会—行政評価の取り組み】

飯田市議会は、平成19年4月全国で初めて「自治基本条例」（地方自治法とは別に、行政や議会の責務や果たすべき役割などを定めたもの）を制定しました。地域主権改革を見据えた動きの一つで、全国の自治体から注目を集めています。

飯田市議会における行政評価の取り組みは、この自治基本条例の理念に基づき、市の総合計画の進捗管理に積極的に関与するというものです。

◆市議会における行政評価の視点と手法

行政評価の導入は「基本計画の施策体系に基づき、結果として市民に何をもたらしたか」という視点から、政策と実績について議会が独自の評価を行うことを目的としており、その評価を決算認定に結びつけていくという手法が注目されていました。

飯田市議会では、「議会は市民のものであることを大前提に、これまで行政が担ってきた領域を自治基本条例に基づき、議会が見直すと共に、新しい公共という視点から市民と行政の役割分担を明確にしてきた」とその意義を強調しました。

◆成果と課題

主な成果として、①議員同士が同じ目線で協議を深め、新たな課題や問題に「気づく」ことができた。②議員が個々に執行機関へ疑問を呈する従前の形態から、様々な観点から協議を行うことができ、政策能力向上の一助につながった。③二代表民主制の中で、議会のチェック機能を高めるための契機となった等が挙げられました。

また、今後の課題として、施策の方向性についての議論が希薄になることや、執行機関側に提出した「施策及び事務事業に対する提言書」の進捗管理への対応などが挙げられました。

【京都府福知山市

—ふくちの農山村応援プロジェクト】

「限界集落」の増加に歯止めがかからない状態が全国的に進んでおり、集落の共同体機能は著しく低下しています。こうした中で、京都府福知山市では、過疎高齢化対策の一環として農山村応援プロジェクト事業に積極的に取り組んでいます。

◆農山村応援プロジェクト事業の概要

過疎高齢化が進んでいる集落に市職員を派遣、職員と住民で「集落会議」を立ち上げ、集落の維持、再生を目指しています。

対象となった集落に共通する問題として、①自治会長など役員のなり手がいない ②草刈など集落内の共同作業が困難 ③鳥獣被害の増加 ④通院・買い物などの交通手段 ⑤祭りができない ⑥後継者がいない等が挙げられます。これに対し、農作業所の改修、鳥獣害柵の設置、また、共同作業用具購入（河川倒木処理）、地域集会所の改修、住民交流会事業などを行ってきました。

◆成果と課題

集落内の話し合いから、地域の課題解決のための取り組みを始め、それぞれの地域の良さを再認識できたことは、大きな成果となっています。

今後は、①地域のリーダーの育成 ②農林行政関係の他、福祉・社会教育分野への市ぐるみでの取り組みの強化 ③準過疎高齢化集落への支援などを進めていきたいとの説明でした。

また、市議会議長は、これらの条件の厳しい集落に加え、次に続くと考えられる地域に対しても対策を講じる必要があり、対象集落の連携や広域的な仕組みづくりに積極的に政策提言をしていきたいとのことでした。

（文責 小池博之）

No.119 2011/10/15

発行／長野県富士見町議会

編集／議会広報編集委員会

委員長 佐久祐司

副委員長 平出隼仁

委員 小池 勇 宮下伸悟

〒399-0292

長野県諏訪郡富士見町落合10,777

Tel 0266-62-9403

Fax 0266-62-9320

URL:<http://www.town.fujimi.nagano.jp/gikai-top.htm>

E-Mail : gikai@town.fujimi.nagano.jp

富士見町議会だよりは、議会ホームページでご覧いただけます。



〈議会広報編集委員 小池 勇〉

2度目の定例会も終わり、いづろか安堵。新人が8人という議会で、ようやくそれぞれが自分の立ち位置をつかみつたあるようだ。
今定例会は平成22年度決算が中心で、かなり細かい部分まで勉強できたように思う。知らない方がよかつたと思うこともある。しかし、これが我々の仕事なのだ。こうした経験を積み重ねること、一歩ずつ成長したい。同時に、初心を忘れてはならないと思う。

〈編集後期〉